

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集 「明日にむかって」編集委員会 発行日 2017年7月7日
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

83号

数日前、ジュバで平和維持活動に当たっていた自衛隊員が帰還後地元で自殺をしていたとの報道を聞き、愕然としました。5月27日、南スーダンから最後の部隊が青森駐屯地に帰ってきました。田中隊長は記者会見で「首都ジュバ市内では連日のように戦闘があり緊迫した治安情勢だった」と話していました。しかし、現政権は「戦闘は発生していない」と嘘の答弁を繰り返して、派遣を続けてきたのです。そして憲法9条に自衛隊を明記するというのです。ただ書き込むだけと思われませんが、武力行使は避けられません。さらに、6月15日には「共謀罪」が参議院で強行採決されました。私たち国民に本当のことを伝えず、まともな説明もせず、無理やり押し通してしまう政治。どこまでバカにされているのかと、腹が立ちます。子どもたちにどんな社会を作ろうというのでしょうか。日本国憲法は宝です。今を夢中で生きている子どもたちの一人ひとりの尊厳を守るには、その価値を伝えることと思いました。(H・T)

出かけよう、外へ！ お散歩へ！

◆陽光保育園の園外保育

昔も今も、子どもはお散歩が大好きです。20〜30年ほど前、陽光保育園のお散歩は、梅や桑の実などを採ってはジュースにして飲み、銀杏、しいの実、むかごを採っては保育園で煎り、みんなで車座になって頬張ったものでした。土手の斜面を利用してどんぐりごすべりを楽しんだり、バツヤやカマキリを追いかけたり、木登りしたり、ワクワク、ドキドキがっぱい。思いっきり走り回る場所や自然が残された空き地がたくさんありました。近頃の公園はきれいに整備され、子どもがひしめきあっています。それでもどっこい、子どもは育ちます。草や木を求めてどこまでも出かけて行きます。

0歳児 ●どんぐり組

どんぐり組のみんなは、散歩が大好き！見るものすべてが新鮮で、お花や葉っぱに触れたくて、「おっ」と言いながら手を伸ばしたり、えび山公園でゴザを広げて座ると、砂の感触を楽しんだりしています。



さあ、お散歩へ

1歳児 ●めだか組

めだか組は、公園に着くと、虫探しに夢中になったり、ボール遊びをしてみたり。そのうち、どこからか「もういいよー」と元気な声が聞こえてきます。「あれー？？ いないな？？」どこに行っちゃったのかな？と保育士が探していると、「元氣よく「ばあー」と姿を現す子どもたち。その表情はどの子ども満面の笑み。とってもかわいいです。大人と友だちと一緒に何かをすることがうれしくて、近くに友だちを感じながら散歩を楽しんでいます。



砂あそびも大好き

3歳児 ●とんぼ組

雨が降った後にお散歩に行った折、道端にでんでんむしを見つけて「かわいいね」持って帰りたい」と言う子どもたちの声から、クラスでお世話をすることになりました。それからというものの、生き物への興味がわいてきたとんぼ組の子どもたちは、虫探しが大好きになりました。生き物、特に身近で見つけられる虫への興味が強く、公園に着くと真っ先に草木の茂みや土があるところを探して「みて、ダンゴ虫いたよ」「あつ、アリさんのおうち！」と、たくさん生き物との出会いを楽しんでいます。

最近、近くの保育園で飼っているヤギを見に行くことも。餌やりの時間に出くわしたときは真剣に観察。「ヤギさん、マンマ食べてるねー、みんなも帰ってマンマ食べようか」と声をかけると、「うまー うまー」という声が返ってきます。

4歳児 ●うさぎ組



草むらにはワクワクがいっぱい



桜の木の下で心がはずむ

桜が見頃の時期に「お花見に行こう！」とお花見散歩に出かけました。遠くにパツと明るい桜色が見え始めると、「うわあ、きれいー」と、子どもたちの表情も自然と明るくなります。

5歳児 ●かもしか組

かもしか組になり初めての遠足で光が丘公園に行きました。「春が来た！」かもしか組になった！と喜びにあふれ、足取りも軽やかに公園へ。公園に着くなり、走りまわると子どもたち。足も速くなり、担任も「負けなさい！」と本気で走ります。まだまだ負けてはいられません。それでも何度か行つたことがある光が丘公園ですが、行くたびに盛り上がるのが「へそよこせばあちゃん」です。最近「へそよこせ研究所」もできて、日に日にあそびが発展していきます。子どもたちの発想はおもしろいなあと感じます。

2歳児 ●あひる組

あひる組はオレンジ色のリヤカーとピンクのワゴン車に乗ってお散歩に行きます。最近のお気に入りの場所は看護学校横の小さな広場です。公園ではないけれど、たんぼほの綿毛がたくさんあって、虫特にてんとう虫もたくさんいます。その広場の最大の魅力は、塀のすぐ外側を東上線が走ることです。踏切が鳴るたびに子どもたちは、今していることを中断し、「どっちから来るかな？」と期待と楽しさで自然と笑顔になり、塀の向こう側を見つめています。



電車がやってくるよ



広い公園で身も心もびのびと



5歳児が3、4歳児の手をひいてお散歩へ

新しいメンバーのあいキッズが始まって、はや2か月余が過ぎました。新しい年生はまたきこちなさが残るものの、徐々にあいキッズでの生活に慣れてくる頃です。新しい遊び相手と出会う、時に喧嘩をし、仲直りして、そんな繰り返しの日々を過ごしています。

●板十小あいキッズ●



「オンリーワン」は大人気のボードゲーム。子どもたちは頭をフル回転してたたかう

●北町保育園●

北町保育園では幼児クラスになると、異年齢での交流を目的とした「たてわり保育」(赤、青、緑の3グループに分かれる)を月1回行っています。

●桜台第二保育園●



6月1日、歯科園医さんと歯科衛生士さんが来て、4、5歳児クラスに歯ブラシ指導がありました。4歳児クラスはこの日から園での歯みがきを始めます。歯垢を染めて、歯がピンク色になると不思議そう。二「二」しながら見せ合っています。

社会福祉法人陽光会◎近況

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●

2017年度も、保育園の子どもたちが日ごろ遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。これまでに参加されたみなさまからも「家庭ではできないことができてよかった」「とても楽しかった」など、たくさんの感想をいただいています。公園ではできない遊びが体験できますよ。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。

場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎3956-1068

時間 午前9時30分～11時(赤ちゃんは10時30分まで)

対象 0歳児～就学前のお子さんと保護者

- *参加ご希望の方は実施予定日の3日前までにご電話ください。
- *動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
- *お天気により内容を変更する場合があります。
- *0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

2017年度◆年間予定

7月11日(火)	8月9日(水)	9月19日(火)
10月24日(火)	11月21日(火)	12月19日(火)
1月16日(火)	2月20日(火)	3月6日(火)

*9月は看護師が「健康」の相談をうけ、11月は栄養士が「食」の相談をうける予定です。

●陽光保育園	●運動会	日時 10月8日(日) 9時～	会場 板橋区立板橋第十小学校体育館
●冬のバザー	日時 12月3日(日) 10時～14時	会場 陽光保育園	
●北町保育園●運動会	日時 10月7日(土) 9時15分～13時30分	会場 北町保育園園庭	
●桜台第二保育園●運動会	日時 10月14日(土) 9時～13時30分	会場 桜台第二保育園園庭	
●陽光会後援会●納涼会	日時 8月25日(金) 19時～	会場 陽光保育園	

ごあんない

●陽光保育園●



空高く舞え！
こいのぼり

すくすく子育て

3

イラスト たいじゅん

子ども、あそび、アートのチカラ

陽光保育園では、お正月の獅子舞、区内の年長組が集まったの子どもシアター、荒馬座のミニ公演、父母の会主催の観劇会など、生の舞台にふれるチャンスを大切にしているように思います。

子どもにとって生の舞台芸術の鑑賞は単に目や耳で「観る」「聞く」だけではなく、からだ全体まるごとの体験活動です。子どもたちは前につんのめるような姿勢で目を見開き、時に笑い、泣き、豊かな表情で俳優や音楽家を見つめます。前回はその「集中力」をつくるのは「遊びの力」であると書きました。

子どもの世界

- ～桜台第二保育園～
- 1 歳児**——飛行機はどこへ？
空を飛ぶ飛行機やヘリコプターの音が聞こえると、「ブーン、ブーン」と指をさしています。「どこに行くのかなー」と保育士が言うと、「さんぽ」と答えてくれました。
 - 5 歳児**——こいのぼりは……おさかな
5月にこいのぼりを作ったくじら組（5歳児）、園庭にこいのぼりをあげるのが日課です。「あつーい！」真夏のような強い日差しの日、散歩から帰ってきて園庭でおよいでいるこいのぼりを見て、「よかったー、こいのぼりが真っ黒になっているんじゃないかって心配したよ」とKくん。それを聞いて、「なんだよ、それ！」と突っ込むAくん。担任保育士が「なんでそう思ったの？」と聞くと、「だって、さかなだから焼かれちゃったかと思ったよ」と答えるKくん。「こいは、さかなだもんね」とみんなで笑いあいました。

また、観ることとともに表現活動が大切です。観ることと表現活動は息を吸い吐くことにたとえられます。ただし、子どもたちの芸術活動はまず、あくまでも楽しく、その芸術を好きになることを目標にするべきです。

ともすると、歌や演奏がうまくできるように、絵がうまく描けるように、うまく踊れるように、などと目標を持ってしまいがちですが、いままうまくならなくても興味を

持ち大好きになることを目標にするべきです。

なぜなら、芸術は人生を豊かにするために存在しているのだから、一生芸術とともに豊かに生きてほしいからです。

実生活の実体験

演劇や絵本などのおはなしやドラマを理解するには実生活での実体験が大切です。たとえば冷たい水にさわったことがあれば冷たい水を想像できます。実体験が言葉理解を深め、深い感動を生みます。また、ファンタジーをたくさん遊ぶことで、実体験のなかでイメージをふくらませる活動ができるようになります。実体験とファンタジー世界が互いに世界を豊かにします。

北欧などでは子どもたちは生の舞台芸術にふれることを教育の中で義務づけられているそうです。豊かな国とは何かを考えさせられます。生の

ただいゆん(多田純也)

上演を主とする「ただいゆん企画」と表現あそびを主とする「風光舎」を主宰。保育園、児童館、老人ホームなどを中心に上演、表現あそびの活動を展開。全国児童青少年演劇協議会加盟、芸術教育研究所客員研究員、講師、NPO日本フットボール委員会理事、日本おもちゃ会議会員ほか

さて、その子供のことですが、一番目のお姉ちゃん（現在小学2年生）の思い出といえは、保育園で朝泣いて別れることです。とんぼ組（3歳児）、うさぎ組（4歳児）、そしてかもしか組（5歳児）と、いつ朝泣かなくなるんだろうと考えていました。卒園3日前まで朝泣いて別れたときは、あと少しで小学校なのにこれで大丈夫かなとすごく心配になりました。小学校に入ってもやはり朝は普通には行けず、泣くのを引張って連れていきました。2年生になるころには、一人で行けるようになり、今は安心しています。

2番目の泰輝（4歳児）は、よくいえばお調子者で普段はお姉ちゃんの言うことは聞かないのに、都合のいいときだけお姉ちゃんを頼りにしています。叱られてもすぐに忘れるところは良いところだなーと感じています。

3番目の悠希（1歳児）は、上の二人を見てお調子者で普段はお姉ちゃんのことを出かける準備をしているときは近くにいって、行く素振りを見せると自分が置いて行かれないように誰よりも真っ先に玄関に行っています。

そういう姿を見てみると、大きくなって生きていけるなーと感じています。

最後に、昨日できなかったことが、今日できているのを見ると、成長しているなーとうれしくなります。（4歳児クラス・泰輝、1歳児クラス悠希の父 永尾泰祐）

ワン・ツー・スリー のびのび体操 1・2・3

赤ちゃんからリズムへ
東京・陽光保育園 小内康寛

第5回 赤ちゃん体操と反射②

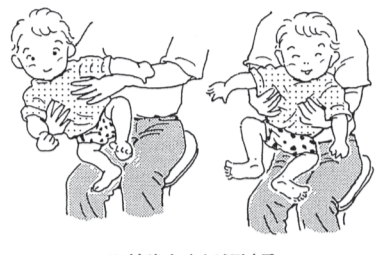
☆「姿勢反射」って？

前回「原始反射」について記しましたので、今回は「姿勢反射」について解説しましょう。「姿勢反射」は、体の外側から姿勢を崩す力が加わったときに、姿勢をたてなおそうとする反射のことです。人の体のなかには、重力に対して前後、左右に体の位置を保つこととか、頭から足先まで通っている軸に対して姿勢を保つことなど、体を安定させる機構があります。

「姿勢反射」も出る時期が決まっています。成長によって反応が変わっていき、大人になっても残っていたりします。成長、発達には欠かせない反射といえるでしょう。

たとえば「立ち直り反射」というのがあります。子どもをお座りの状態にして、わきの下を持ち、体を斜めの姿勢にします。すると子どもは、あごと横腹をひねるようになり、体を元の位置に立て直そうとします。

「立ち直り反射」（イラスト）は生後6カ月前後から出るといわれています。背骨は、胸、首、腰あたりから順番に湾曲してくるのですが、この



※前後左右に傾ける

ころになると、胸あたりの背骨の後方湾曲ができるようになり、上半身を支えることが安定してくるのです。

子どもを前後左右に傾かせると、子どもが対応できるようにするには順序があります。前方がはじめて、ついで後方。横側の傾きに対応して頭位の安定できるようになるのは最後です。頭位の安定は上体を起こしたときにはじまる姿勢ですから、この時期に抱っこをする大切さもわかりますね。

子どもが運動的に何かができるようになるには、体の機能が成熟し、反射がでて、運動神経が整って初めてできるのです。赤ちゃん体操では、この意味を大事にして、月齢によって内容を変えていきます。

体を安定させる大切な機構

*『新婦人しんぶん』2000年8月24日号掲載



弟が、そして母が……

弟が、そして母が……

——東京大空襲を知っていますか(3)



利光はる子

(前号からの続き) どなたの遺骨だったのか、弟のものだと信じていた父も、1961(昭和36)年に亡くなった。

もうもうとほこりのたつ講堂に、毛布1枚の上に寝かされて、手当らしいことも受けないうち1週間以上も放り出されていた母たちは、やがて九段の通信病院にトラックで運ばれた。

ところどころに黒く皮膚がこびりついた手の甲、爪もなくグローブのように太く腫れあがった指、化膿して黄色い層になった腕。先のそった大きなハサミで黒く残った皮膚を無理にそぎ、そのあとに白い油性の薬をさっと塗り、包帯をして終わり。それが手当のすべてだった。

こんなにひどい火傷を負っていた母。ひと言も痛いとか苦しいと言わず、ただ耐えるだけだった母。人一倍信心深く、他人に親切だった母。喉の内側が腫れあがっていたため、やっとの思いで伯母が作ってきた野菜スープのひとさじが5分、6分かかってもなかなか喉を通らず、鼻から出てくる始末だった。顎を下にひいて指で強く押さえなければ窒息しそうな様子で、私と父は交替で押さえ替えていた。

罹災者に薬を使ってはいけないと軍からの命令が出たので、白い薬以外は注射どころか、一服の薬さえもらえなかった母。幾日もスープさえ喉を通らないことを医師に話したら、紫色をした液体の薬を一度だけ喉に塗ってくれた。そのときはじめて大きく呼吸ができたのを喜び、お金はいくらでも出すからと家族はお願いしたが、20日ほどの存命中、薬らしいものをもらったのはわずかその1回だけだった。

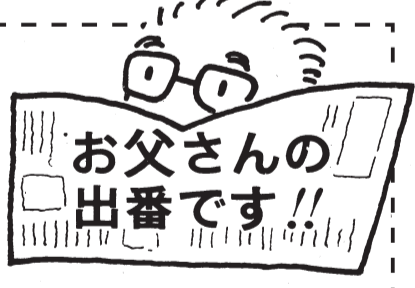
3月30日、「はる子、世話になったわね、ありがとう。社長さんにも本当にお世話になりました。厚くお礼を申してちょうだいね」と突然の母の言葉。社長さんとは、入院と同時に布団や毛布、貴重な食料品などを初台から飯田橋まで届けてくださった証券会社の社長さんご夫妻のことだった。

「母さん、死なないでね」と言うと、「残酷よ、これで生きろというの。親不孝よ。宗治も待っているし、過去帳もみんな焼いてしまって申し訳がたたないわ」「それじゃあ、私はどうすればいいのよ」「私はね、いつもはる子のそばにいるわよ。だから、どこへでも、身が安全だと思ふところへ行きなさい」

それっきりひと言もしゃべらず、翌朝6時過ぎ、私がお手洗いにいって急いで戻ってきたときには母はもうだめだった。31日6時15分だった。死因は破傷風と書かれてあった。そのとき父は、弟の戒名をお寺にいただきに行き、病院にはいなかった。終戦が半年早かったら、東京、広島、長崎の被害はなかった。当時の権力者たちに強く責任を問いたい。

戦禍あび 二十日余りを苦しみし 母逝きし朝 桃花満開 (了)
(板橋区在住/89歳)

※利光はる子さんの手記をまとめ、構成させていただきました。(編集部)



成長

「陽光保育園」は私の弟が園児として通っていました。私もまだ子供のころ、その弟が、「今日、城北公園まで走って行って来た」とか、「今日は公園で銀杏やつくしや、よもぎなどの野草をとって食べた」などと楽しそうに話すのを聞き、自分に子供が生まれたら是非、陽光保育園に入れ、元気に遊ばせたいと中学生のころから考えていました(現在は、野草などは食べないといふ聞き残念ですが)。待機児童が多いなか、私の子供が3人とも陽光保育園に入れたことは、本当に運がよかったと考えています。